



## ひまわりの会の紹介

発達障害者の家族会「ひまわりの会」を開設するための準備を始めたのは、2018年2月のことです。知的障害者の家族会や精神障害者の家族会は地域にありましたが、発達障害者の家族会が、地域に向けて開かれる形ではありませんでした。

そこで、まず準備を兼ねて、あるNPO法人のB型作業所の一室を借りて、月に一度の集まりを始めました。そして、2020年の9月に、会則を作り3名の世話人を選出して正式に活動を開始しました。

今では年に一度の啓発講演会を開催し、昨年の夏からは、まだ参加者は少ないものの昨年から「当事者会」も始めています。

### ☆例会の主な流れ

毎月の第2土曜日の午前10時から12時迄の時間、初石公民館で定例会を開いています。

内容としては、一か月間の生活の中で起こった当事者や家族の様子・出来事を話すこと、発達障害に関する情報提供や本やイベントなどの紹介、新しい参加者の方の自己紹介やお休みされている方の様子などについて紹介します。

### ☆例会の約束

定例会がストレスなく参加できるように、幾つかの約束を掲げていますので紹介します。

- 1 安心して話せるように、例会での話は他の人に話さないこと。
- 2 本音が言えるために、他の人は話される内容の批判をしないこと。
- 3 みんなで話せるように、一人の人が話を独占しない。
- 4 話したくないことや話したくないとき

は、他の人の話を聞くだけでも良い。

### ☆住まいの範囲は問いません

定例会は、流山市で開催していますが、それは流山市の方だけを受け入れるという意味ではありません。現在も、柏市・我孫子市・野田市などからも参加されています。また、当事者の方が重複障害のため、別の障害者団体に所属されている方もあります。

まず参加されてみて、皆さんにとって有意義であれば、続けてご参加ください。

### ☆発達障害への理解



#### ・発達障害理解の重要性

- ① 人口の1割に及ぶ→発達障害を意識し、自分にも特性がないかを自問する。
- ② 24時間・365日、老若男女あらゆる生活場面に影響する。
- ③ 正しい理解と適切な対応で生活が改善する。→治癒を目指す医療モデルではなく、生活重視の社会モデルで対応する。
- ④ 不適切な対応で、多くの2次障害を起こす。→精神疾患や依存症が2次障害として発症することがある。

#### ・発達障害をめぐる誤解

- ① しつけや育て方の問題が原因ではない。→親のかかわりや愛情が足りないというのは誤解である。
- ② 子どものわがままでもない。→生まれつきの中枢神経系の障害が原因。
- ③ そのうち大丈夫になるとも限らない。
- ④ 個性や性格ではない。→理解と配慮と支援が必要な特性である。

つまり、発達凸凹の状態に加えて、環境とのミスマッチ(不適合)が起こることが対応の大切な要点である。

(広瀬宏之氏 精神科医の言葉から引用)

### ☆定例会案内

5月14日10時 初石公民館会議室

6月11日10時 初石公民館会議室



「ひまわりの会」問い合わせ

電話：勝本 090-3696-1589

勝本メール:cqj04465@ybb.ne.jp